

## 自由意見(1) 業務内容について感じていること【概要】

### 1. 仕事の内容に関するこ

1人で負担する仕事量と責任が大きすぎる

主な業務が積算業務であり、照会ものや内部説明資料の作成など、土木以外の事務的な仕事が多い  
勤務時間内で終わるデスクワークと思っていたが、日中は現場に出て、戻ってから事務作業で残業と思っていたより大変な仕事

スケールの大きさは想定以上で、若手でも責任ある仕事を任せてもらえる

ゼネコンから転職してきたが、思っていたより大変だと感じる

ハード整備ばかりで、大学で学んだことをあまり生かせない

ルーティーンワークが多く、改善を提案しても反映されにくい

関係者が多岐にわたり調整に時間がかかる

技術的な仕事よりも、関係機関調整や地元、業者との調整が多い。コミュニケーション能力が必要

議会や地元有力者、業界からの意見が業務の優先度へ影響を与える事がある

業務が多岐にわたり(計画・設計・積算・苦情要望対応・照会回答・現場管理・用地交渉・予算要求・調査など)幅広い分野で学ぶことが多い。一方、集中して作業が進められず作業効率が落ちやすい

苦情処理が多くストレスはたまるが、たまにありがとうをいってくれる人がいるのは嬉しい

計画から施工まで、幅広い業務に係ることができるため、満足している

国からの照会への回答など、入庁前に想像していなかった業務がある

事業以外の仕事に手と時間を取られることが多い。水防待機、議員や住民の問い合わせ対応など

事業規模の大きな業務に携われ、業務内容については満足している

書類作成に時間を取りられるので、現場を見て勉強できる時間を取りづらい

小規模工事から大規模工事まで、多岐にわたり満足している

常にマルチタスクが求められるため、抜けがあったり、完璧にこなすことが難しい

人の役に立つ仕事ができていると思う

水道施設やダムの運用・維持管理は、施設特有の事情を考慮しながら業務委託・工事を進めていくところにやりごたえがあり、機器の操作やメンテナンス等で体を動かす機会も多くあるので面白い。また、少人数の部署が多いので他担当者と連携しやすく、改善・改良に取り組みやすい

昔は職員自ら計画、設計、施工管理をしていたが、今は外部委託し、積算や調査・照会対応などに多くの時間をしており、技術を必要とする場面は少なくなっている

積算業務の負担と責任が大きい

専門的な知識と瞬時の判断能力が必要となるので難しい

専門分野であるため大学で学んできた事を生かすことができる点は良い点。また目に見えて成果が出るのでやりがいはある

前職がコンサルだったが、業務発注、監督職員、予算管理などと思っていたよりも色々な仕事がある。人手不足もあり公務員の割に労働時間が長い。イメージしていたより柔軟な部分が案外多い

前職がコンサルだったが、事業の調査、計画、設計、施工の全ての段階に携わることができ、事業全体のマネジメントとしての面白みを実感することができる。地域と連携して課題を解決できた場合の達成感は大きい

想像していたよりも事務的で、文章作成能力が問われる。得意分野である理系っぽい仕事がしたいと感じる時がある

想定していたよりも大きいプロジェクトの一環に携わることもあり、やりがいをもって遂行できている

想定していたより多岐にわたっていた

多くの知識を身につけることができる部署であるので良かったと感じる

大きな工事を担当しているので、指示するのにも責任を感じる

担当する業務により難易度にばらつきがあるが、幅広く仕事ができる

地域に貢献するための仕事をしていることを実感できている。まちづくりなどで、地域住民の声を聞き、それを計画等に反映し、形にしていくことで、地域活性化への貢献を感じている

地域に貢献出来、小さな工事から地図に残る仕事まで様々経験できる  
地域に密着し、地域のために仕事ができていると感じる  
地域のインフラ整備を行い、安心・安全なまちづくりに貢献できていると感じている  
地域の活性化、利便性の向上に寄与でき、地元の方等の笑顔に触れることができる  
地域の要望に沿った行政事業に携わっている  
地域への貢献を感じる業務と、無駄な作業と感じる業務が共にある  
地域住民の生命と財産を守っていると感じる  
地元からの要望と工事進捗のバランスを取るのが難しい  
地元に貢献できるような仕事ができると思っていたが、実情は地元から苦情・クレームを言われることが多い  
地元に密着した細かな業務が多いと感じる  
地元対応や苦情処理など理不尽な部分もある  
地方自治法など法律に基づく職務であり、書類仕事が多くスピード感がない  
地味な仕事が多い  
庁内決済、電話対応やメール業務など無駄が多く、本来の仕事に取り組む時間がない  
土木事業でも先進的な取り組みを経験できている  
土木事務所では工事の計画や施工に主体的にかかわることができるので、難しくも楽しい仕事だと思う  
土木事務所で市民要望に関わる工事ができて満足している。さらに新規路線など地図に残る仕事ができていると感じているので満足  
土木事務所は、型にはまつた業務委託・工事の発注や監督に終始するので面白みに欠ける。また、人数が多いせいいか出る杭が打たれるような風潮があり、少しの改善にも多大な労力を要する  
土木的な業務と行政的な業務の両面をこなす必要があるが、土木的業務に費やす時間が少なく感じる  
特に本庁では、予算や市会対応などに莫大な時間をとられており、技術的な内容を深く探求することが出来ない  
入庁後、早い段階から幅広い仕事に取り組ませてもらえた  
煩雑な調査ものが多い。業務に追われ専門的な検討を業者にまかせがちになり、自身のスキルが上がりにくい  
必要不可欠な仕事だと感じる  
幅広い業務に従事することができている  
魅力的な業務が多い  
民間ではかかわることができない仕事をしている  
予算の管理、現場での監督業務など、判断力、技術力が求められる場面がある  
予算や法令・基準等の知識など幅広く求められる業種  
様々なしがらみがあり、つまらない計画しかできなかつた  
利益追求にとらわれることなく、正論で仕事ができるところに魅力はある  
良くも悪くも法規等に忠実にならざるを得ない

## 2. 仕事の進め方に関すること

システムで解決することが未だに人手で行われるなど、非効率な働き方に問題を感じる。率先して改善すべき  
業務の進め方等でまだまだ前時代的なものがあり、改善すべきだと感じる  
現場立会など移動時間に時間を取られてしまい事務作業が遅れる  
予算や内部資料の作成など組織内部に向けた仕事については簡素にできないものかと思う  
仕事のやり方が効率悪い。パソコンのシステムも連携が不十分で、無駄な作業が多い  
紙でのやり取りが多く、データ化が遅れており不便であると感じる

若手からのボトムアップがほとんどなく、議員や首長の言葉に振り回されている

情報が整理されていない。マネジメントができていない

職場改善意識、生産性が低い

前例踏襲で、新しいことに挑戦できない

組織内の調整に労力が必要

担当任せ。組織として動けていない

地元住民対応でいきなり怒鳴られたり、業者とのやりとりでもめたりなど精神的なケアや上司などのバックアップ体制が重要と感じた

非生産的で保守的な仕事のやり方が多い

無駄な書類作成が多い

### 3. 人事・組織・人材育成に関すること

2~3年で異動となるため、設計、計画、施工など異なる立場で業務に携われ幅広い経験ができる

2~3年で異動となるため、専門的な業務内容を学びきれない

希望の部署に配属され、やりたいことができている

希望の部署に配属されず、やりたいことができない

研修もされずいきなり工事の監督員を担当となり、民間事業者との折衝など厳しかった

組織として技術力を醸成しようとしているように思えない

異分野への異動で今までやってきたことが活かせず、一からのスタートになる場合がある

技術の継承が出来ていない

業務成果が数字に表れにくいので、人付き合いや上司に従順な人が重視される場合がある

事業途中で人事異動が発令され、(事業の完成まで)やりきれない時はモヤモヤする

社会人経験者が経験や適正に応じた配置となっていない。適切に配置し効率的な事務執行ができる仕組みを作るべき

人事異動が多く、業務が慣れてきたころに異動となる

数年毎の異動でいきなり問題を抱えているものなど、自分の裁量で業務を動かせるばかりでない

組織として技術力向上が見られない(1級土木施工管理技士や技術士の所持者が少ない)

組織の規模が大きく、業務が縦割りすぎて、組織内の連携不足を感じる

配属先の業務内容は希望していた分野ではなかったが、専門知識を増やしスキルアップを重ねる中で面白さを感じている

幅広い業務を担当すると思っていたが、技術系の職員は特定の分野に特化するケースが多いと感じる

幅広く業務を行うため、専門性はあまり身につかない

良くも悪くも縦割りで辟易することがある

### 4. 職務環境・ワークライフバランスに関するこ

上司の仕事の進め方や圧力的な言動で担当の負担とストレスが大きくなるケースがある

家族の時間と仕事の時間を両立できているため概ね満足

残業時間や災害対応による急な出勤が多く、ワークライフバランスの実現が難しい

仕事のできる一部の人に負担が偏りがち

職員数が減っている影響か一人当たりの仕事量が多く、本来やりがいを感じれるところをしんどさが上回る

中堅職員が少なく技術面で気軽に相談できる人が少ない

### 5. 処遇に関するこ

初級・中級・上級職員と業務内容に差がないのに給与が異なるのは不満である

給料は一律なのに人によって業務量のばらつきが大きすぎる

業務内容に対して給与が見合っていない

仕事量が多い割に民間の友人よりも給与が低い

## 6. モチベーション・やりがいなど

インフラ整備により、暮らしが良くなり、満足感がある

デスクワークとフィールドワークのバランスがよく働き甲斐がある

どの方向に向かっているか、目指していることが分からぬことがある

業務内容がそのまま住民の暮らしに還元される。礼を言われることも不満を言わされることもあるが、「住民のための仕事をしている」という実感があり、やりがいを感じている

携わった施設が数十年使用されるということに、責任感とやりがいを感じる

工事が完成し新聞に掲載されることがあり家族に自慢できる

工事が進むにつれて現場が完成していく様にやりがいを感じる

工事完了したとき、地元の方から感謝をいただいたときはやりがいを感じる

自身の考えた内容が、具体化され、まちづくりや地域に貢献出来ることにやりがいを感じる

自分の携わったモノが完成し、住民に利用いただいているところを目にしたため満足している

実際に働いてみると、とんでもなく幅広い業務があることを知った。覚えることがたくさんあり、毎年成長できることに満足感を感じる

住民・学識・地元工事会社等、様々な人々と一緒に仕事をしたいとの意向で入庁し、予想通りで満足している

出先事務所での業務は住民の困りごとに答えられる仕事が多く、礼を言われたときは達成感を感じる

出先事務所での業務内容は想像していたよりも現場に携わる機会が多く、様々なことを考慮した上でどうするか考え、最終的に成果物が目に見えるのでやりがいを感じる

出先事務所は、測量、地質調査、設計、工事までできるので、大変であるが、やり甲斐があり楽しい

新たに学ぶことが多くて楽しい

責任ある仕事こそやりがいを感じることが出来ると考えていたため満足している

達成感がなく、期日に追われるばかり

担当したものが完成し、様々な方に活用してもらえるため、達成感を感じることが出来る

担当した仕事が目に見える形で残るので、達成感がある

地域に貢献できていることにやりがいを感じる

地道な定型業務が多く、やる気をそがれるときがある

地元折衝が大変ではあるが、地域貢献できているので、やりがいはある

土木構造物の築造後に現地にきた時、やりがいを強く感じる

部署によって業務は大きく異なり、一概に仕事がどうとは語れない。楽な業務も大変な業務もあったが、いずれもやりがいは感じている

幅広い分野に携われる。地域の課題を解決できることはやりがいを感じる

本庁勤務のため、地元から距離のある業務が多く、地元への貢献ができているか実感がわきにくい

様々な分野の仕事に携わる分、知識も必要となるため、楽しくもあり大変でもある

## 7. その他

華やかさや遊び心がない。時代のニーズに合わせ公務員を輝ける職場にするべき

財政的に国に従属して縛られており、国の要求に応じざるを得ない

## 自由意見(2) 技術力や技術向上のための取組について【概要】

### 1. 研修・勉強会・OJTなど

OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)の充実

オンライン講座で各自時間があるときに勉強出来る機会があればありがたい

コンサルとの協力強化。コンサルからの技術知識の提供・勉強会など

とにかく現場を見る、上司や業者に教えてもらって勉強していくしかないと思う

異動が多くスペシャリストが育成できない、技術力強化のための座学も制度として必要

各工事の施工でどこでどのような問題が発生しやすいかという討論などを行う集団研修を実施してほしい

活発な意見交換や技術研修への積極的な参加

大学・大学院などへの科目履修生や正課生として入学し学び直しを行う制度を土木職にも創設

技術力が高い外部との交流を積極的に行うことが必要(現場見学等)

技術力向上のための研修制度を充実させるべき

研修や職場内でのコミュニケーションなどの知識の共有

研修等については、文章だけでなく、写真や現場を見ることで知識の習得を行う

県OBなどからマンツーマンで設計作業するような研修を行う

災害などの緊急時にこそ自治体職員の底力を發揮する必要があるため、被災自治体の経験を伝承していくための研修等は必要

最新技術を知ることができる研修や学会への参加の支援

参加しやすく、実地で生かせる内容の研修を実施してほしい

事務作業を減らし、いろいろな現場へ立会・見学等を行い、現場のことをもっと知る

事務所内で他現場の見学会を積極的に実施

自己研鑽等で技術力向上をはかっている

実技も含めた技術研修を定期的に受講するのが有効

新技術等の情報を積極的に取り入れる必要がある。技術講習会等には積極的に参加する。技術図書を充実させる

積算など工法にあった歩掛を使用しているかなどのみんなで集まって行う等の取り組み

先輩職員からの技術伝承や現場を知る体験、ゼネコン等の技術者との意見交換の場があれば、技術向上に繋がると思う

他府県と合同研修の数を増やす

多くの現場を観ること。また、トンネル、橋梁など専門性の高い工事について知識を習得すること

主な業務である工事監督に関してはプロ意識を持つ必要があり、監督業務に特化した研修等も必要である

役所主体で現場見学等を行うべき、自分自身以外の工事も実際に経験できるとよい

様々な研修や講習があり、通常業務との兼ね合いではあるものの、技術力を向上させるための場は多く設けられていると思う

### 2. 資格取得等に関するこ

1級土木施工管理技士や技術士など資格取得を支援するべき。補助金制度等(資格試験・参考書購入の助成)

キャリアプランに資格取得の成果を反映

維持管理や施工管理など施工業者を管理・監督する立場である以上、施工業者よりも高度な技術力や資格を取得していることが望ましい

一級土木施工管理技士や技術士を取得したら、手当がつくような制度を作れば、勉強する人が増え、技術力向上につながると思う

一人あたりの業務量を削減し、それぞれの担当業務について受発注者との折衝や設計成果品の確認、技術的検討に多くの時間を確保できるように改善することが必要

管理職へ昇格する際に、一級土木施工管理技士等の資格取得を必須条件とする

県では、資格等に関して講座を開くなど、技術力アップに対し、積極的にアプローチしてくれている。しかし、給料等への反映はなく、受験料や登録料などでもしろ収支はマイナスになる

資格は能力証明の一つであるため、給料に差が生じてもいいと思う

企業と同じように、資格取得に受験費用の負担及び給与への反映があれば、地方公務員の技術力は向上すると思う

資格取得のための研修があつたら嬉しい

職場で特定の資格保有者割合を上げる目標制度

### 3. 人事・組織・人材育成に関すること

3年に1回程度異動があるため、技術的知識を身についたタイミングで異動になり、技術力がつきにくい。異動までの期間をもう少し長くすべき

コンサルやゼネコンなど民間企業との人事交流

スペシャリストやジェネラリストといった各技術者の適正に沿った人事をすべき

組織として技術力を醸成しようとしているように思えない

若手をきちんと教育することを念頭に置かなければ、設計の照査や施工品質の確認する力がなくなり、結果費用の精査も疎かになる

上のものが下を育てるという意識がない

異動の際に継続して同じ分野で仕事が出来るよう配慮して専門性を高めていく。

技術力がある人が必ずしも技術を発揮できる部署に配置されていない

ジェネラリストを育てるのか、スペシャリストを作るのかなど、職員の育成方針を示してほしい

技術力の高い外部組織との人事交流など

技術力を向上するための時間的余裕がまず必要。人員不足により業務に追われ技術力の向上に割く時間がそもそも取れないことが問題

技術力向上に向けては意識の高いゼネコンOBを嘱託職員等として採用することが望ましい

技術力向上のために学習をすることによって得られるインセンティブがないこと、議員対応・地元対応・業者対応・内部対応等日々忙殺されている中で、学習に回す時間がないことが原因

経験者採用の人が得意分野に配属されていない

計画的に経験者を採用する、もしくは民間に出向して若手技術者に経験を積ませる

現場や専門性に特化したベテラン職員と働く環境があればうれしい

国や他自治体、民間企業などとの人材交流や、民間経験者の積極的な登用

社会人採用者の適正配置

周囲に民間出身者が多く、その方達が技術力を広め、良い効果を生み出している

人員を増やして現場に出る余裕を持たせる

若手職員の建設会社、インフラ系組織への派遣・人事交流

中堅層が著しく少ないので若手職員の指導が行き届いていない

技術力向上のために若手職員の指導に力を注ぐべきである

### 4. マニュアル・技術基準等の整備

技術継承のためのマニュアル等作成が有効

現場での品質管理、施工体制の確認などの基本的な取り組みを覚えるためのマニュアル

指針や基準などの文献等は最新のものを購入するようにしてほしい

必要な文献、文書を索引しやすくして欲しい。どこに何が書いてあるかわからない。電子データでまとめて欲しい

### 5. その他

計画や施工などの知識・経験を深めるほか、行政全般の知識・経験(法律、制度、組織)も大事。業者や専門家に丸投げではなく、どのようにしたらプロジェクトが動くのかを考えて取り組んむことに注力している

業務の中で施工業者から学ぶことが多い

IT環境やICT等、新しい技術を素早く採用し実践する習慣をつけないと、民間技術者との技術力の差は埋まらない
コンサル、ゼネコンからの知見の吸収できる場面を増やす ゼネコン、コンサルタント、地方公務員はそれぞれ求められる技術力が異なる。公務員にはゼネラリストといった幅広い技術力が必要
社会人経験者が上司のため、若手職員が技術力を吸収できる職場である まちづくりの主体となるため、大学の講義で習う工学的な技術力はもちろんのこと、政策立案・市民や企業等との合意形成・広報に関する技術力が特に求められる 意識が高く、余裕のある人は研鑽できているが、仕事量に忙殺されている人が多い。また、仕事の中で覚えること多く、残業しない時代だと示方書などを知る機会が少なくなっている 一定以上の年齢の職員は、とても技術力があるが、若手にじっくり教えるシステムも時間もない。先輩職員と現場に行って、じっくりレクチャーを受ける機会や時間がもっと必要
技術の共有ができていない
技術よりも地元調整や工事以外の仕事スキルの方が必要 技術職公務員の技術力は、積算に割かれすぎていて、現場にも行けず、事業を進める仕事がおざなりになってしまい。積算業務の簡素化が必要
技術的な部分より調整能力などの方が求められる 技術力の必要な仕事より、各調整事などの事務仕事の方が圧倒的に多いため、現状では技術向上の優先度を低くせざるをえない
技術力を高める機会が少ない
技術力向上の取組意識が低い
学会活動や他業種との交流の場など仕事としてかかわる機会を増やす など
現場など現場技術員に任せるのではなく、普段から自主的に現場確認を行っていくこと 現場に行く機会を増やすことが一番重要 机上で図面を見たり、積算していても技術力は向上しない。現場を見て、わからないことは代理人に質問して教えてもらう、課題に対して一緒に考えなどすることが大事
自ら、設計や施工を行う
現場への臨場を増やす 現場経験は必要。経験者に教われる仕組みを作るべき。例えば、基本的な掘削や埋め戻し、コンクリート打設等、基本的な作業は経験、どのように設計すれば仕事がしやすいか、施工は可能かなど理解でき、それが技術力向上の第一歩。社会人経験者の経験やスキルを活用することが近道
最新の技術を積極的に利用しても問題ない制度や自治体内での前向きな姿勢
個人で努力し勉強しなければ技術力は向上しない 技術力の向上の面では、主要な業務や規模の大きい業務には若手を入れた複数世代のメンバーでチームを組むことができるとより向上できる
コンサルやゼネコンを意識した技術力向上よりも、技術的な知識+調整能力のバランスが重要 公務員は一つの分野のみに長期間携わることはなく、それらを専門的に習得するのは困難なので、浅く広く知識を習得することが重要
公務員は事務力、説明力、折衝力が必要
構造令や基準だけでなく、実際の現場感覚が分からないと業者とも分かり合えない
講義形式や見学をするよりは、実際に現場の作業をやってみたい
最先端技術を見据えながらも、基本をしっかりと理解してなければならない 実際に自分が詳細設計等を担当した分野については一定の知識がつくと感じるので、その知識を共有したりほかの職員やコンサルに教えてもらうのがいい
若手職員は土木的な技術よりもマネジメントや仕組みづくりが重要と感じている様子。土木職のあり方そのものを考えるべき
就職してからも勉強をする努力が必要 住民への対応が多い中、勤務時間内に業務以外での知識習得が難しい。「研修=暇な人」のイメージが強い技術力の向上が住民サービスに直結しにくい。住民に理解してもらえない
新しい技術をより取り入れやすくするべきである

新技術を導入する予算がない

積算業務や契約事務を委託する。監督員は技術的な業務を行うべき

多くの公共工事の発注等に携わり、ゼネコンやコンサルタントの技術者から学ぶことが、技術力の向上につながる  
地方公務員に求められる技術力というのは設計コンサルタント、施工業者と話をして理解し説明できる、インプット・アウトプット力だと思う

地方公務員の求められる技術力はコンサル、ゼネコンなどの技術者から成果物をあげられたときに各種基準、現場条件に適しているかを事業者として判断できるかが重要である。そのためには、現場に触れ各懸案事項を整理しておくこと、該当する基準書に触れ技術者に問題ないか確認を行うことを日常業務から意識する必要がある

地方公務員は技術の活用ではなく、コンサルや施工会社が提案してきた技術の利用可否を見抜く力や、様々な技術を活用して提案する力が必要

庁内でも経験豊富な職員が減ってきており、若手職員の割合が高いことから、技術力の向上は喫緊の課題である。常駐のコンサル等から技術的支援があるとい

発注業者と対等に話すことができる技術力は最低限必要

発注業務に時間を多く使っているので、もう少し簡素化してもいい。そうすることで、現場での経験値が増えて、技術力が向上する

法律に基づくルール等は理解しておくべきだと感じるが、ゼネコンやコンサルタントと比較できるような技術力を持つ必要性を感じていない

法令・財政等の地方自治上の課題と技術を総合する能力にこそ、技術系地方公務員に求められるものだと考える  
本庁の計画系、設計系、建設事務所それぞれで求められる知識が異なる

それら各自にあった講義のようなものを実施すべき

業務が多忙などで積極的に向学に励むことが難しい職員もそれらが受講できるような仕組みを構築すべき

公務員ならではの技術力(防災対応や地元意見の集約など)を磨く必要がある

率先して勉強する風土の醸成

### 自由意見(3) やりがいのあった業務【概要】

#### (1)仕事の内容に関するここと

P-PFI(都市公園公募設置管理制度)の実施

インフラ分野における脱炭素化の促進

スケールの大きい工事の担当を経験して、目に見える成果が表れた

デマンド型乗合タクシーの導入

トンネル工事

バイパス河川の改良事業

ハザードマップに関する市民対応

ポンプ場の設計

まちづくりの計画

ものづくりの計画・設計段階から完成まですべての段階に立ち会えることにやりがいを感じる

駅前広場の改良事業等

堰堤、急傾斜において、実際に設計から関わった事業が構造物としてできあがったとき非常にやりがいを感じた

応急給水

下水汚泥の有効活用のための施設を建築した

下水道処理場工事で日本でも数少ない工法施工に携われたこと

河川改修や防災工事など後世に残る仕事

学校への出前講座や、浸水想定区域図の作成業務に関する計画等

完成した構造物が目的の機能を発揮したこと

幹線共同溝の設計

環境影響評価法と同時手続きによる都市計画決定。及び、整備開発及び保全の方針の都市計画決定

急傾斜地崩壊対策事業

橋りょうの架け替え

局の経営方針を左右するような資料や分析をしたこと

苦情・相談窓口、浸水対策事業

熊本地震による応援派遣や台風21号の緊急出動といったライフラインを継続させるための業務に携われたこと

形に残ることをした時(法面工事、地元に常に貼ってある看板や案内など)

計画、工事等で10年以上かけておこなってきた事業に携わり、完成に立ち会えたこと

計画・企画をする部署で作成した計画が、別部署に引き継がれ、詳細設計され、工事発注され、実際の構造物になっていくのを数年後に見たとき

公園の新規拡張整備を行い、多くのご家族が遊びに来ていただいている姿を目にしたとき

工期が無い中で電線共同溝設置・舗装美化の工事を工事完成させ、施工前とは見違えるようになったとき

工事の設計から現場完成まで携われたこと

工事規模の大きいシールド工事はやりがいがあった

港湾事業関連

高架橋の架設

高規格道路の整備推進

国家プロジェクトレベルの工事に直接関わること

砂防堰堤工事

施設のシステム全体を俯瞰して、今後の人ロ減少に対する投資の方法についてまとめることができた
施設統廃合や、施設の改築更新など、市の方針を決めるような規模の大きな業務に携われたこと
事業の予算管理や公表資料の作成、市会の答弁書作成等の多くの人の目に触れること
自身の設計したものが市に残り続けること、また市民に感謝される仕事ができることにやりがいを感じる
自転車道の整備が完了し、地域の方と協力して企画したツーリングイベントが開催され、参加者からも好評をいただけた。しっかりと利用されてる実感があるとやって良かったと感じた
自分が企画したイベント、業務が成功した時
自分のこだわりや意見を反映させた現場の完成
自分の仕事の成果が地図に残ったり、マスコミに取り上げられたとき
自分の設計したものが実際に完成し、利用されているのを見たとき
渋滞対策等
重要な社会インフラである水道施設の整備に携われた
小学校全児童を担当現場の見学会に招待したこと
先進的な道路利用の検討、高速道路の要望等
大きなバイパス工事に携わることができた
大規模な公共工事・プロジェクト
大規模なスポーツ施設の工事に携わった
大規模河川の護岸整備
大規模事業の設計・積算を担当し、工事を発注できたこと。その工事がどんどん進み、構造物ができている様子を見ると達成感があった
地域防災計画の抜本改定や国土強靭化計画などの重要な計画作成に従事できたこと
水道調査の委託を円滑に進めるための業務、老朽管布設替えの設計書の照査、先輩職員への研修を担当したこと
調節池整備
長期間携わっていたり苦労した案件が達成した際
津波対策の新しい水門を完成させたこと。長年役立つものなのでうれしい
通学路等の安全対策
鉄道の高架事業
都市公園の再整備、長寿命化修繕計画の改訂
都心部のまちづくり計画に携わったこと
道路改良工事の現場監督を行い、整備後に渋滞せずに車が流れている様子を見るとやりがいを感じた
道路活用に関する業務
道路交通網が十分に発達していない地域における自動車専用道路の建設
道路工事で着手前後で走行性や美観がはっきりと変化したことを確認できた
道路工事完成後に、自分で新しい道を通った時
道路工事等で地元に喜ばれた事
道路補修など日々の市民対応
包括民間委託業務の発注業務
万博開催に向けた新規開発の業務。いろいろな調整があり大変であったが、人の記憶に残る万博というイベントに関係し、かなりやりがいがあった
路面復旧工事において、特殊且つ複雑な施工条件を持つ観光地の現場。設計から工事完了まで約2年間地元対応に追われたが、完了時にやりがいを強く感じた

## 2. 仕事の進め方に関するこ

観光地の無電柱化事業。現地条件が非常に厳しく一時は事業が危ぶまれていたが、一つずつ課題を課解決して工事着手が見えてきた

河川整備の計画(地元とのコミュニケーションにより地元への貢献度の高い選択ができるこ)

環境影響評価の審査を通じて、事業者に環境保全の観点からの指導を行い、より環境に配慮した事業の実施につながった

関係機関と苦労して調整していた案件が解決に進めることができたとき

規模の大小にかかわらず無事に完了した場合はやりがいを感じる

橋梁維持修繕業務、劣化した橋の状況から、必要と思われる対策を検討して対策を実施し出来たのは面白かった

景観業務(地域の方とその将来像等について話し合いながら実施)、アセットマネジメント業務(市町村と今後の土木インフラの管理方法等について議論しながら実施)

景勝地となっている公園の維持管理業務

地域の保全団体や学校、また視察に来る学識者とのやりとりを通じ、地域への貢献を感じた

交通インフラ系の政策担当となり、今まで築き上げられてきたインフラをいかに活用するか、関係各所と調整しながら進めていること

作業員も周辺住民に対しても大きな事故がなく工事を終えることができたこと

市民と直接話ができる事務所では、自分の業務で市民の生活が改善される様を感じることができやりがいを感じた

市民に寄り添った対応等で、感謝の言葉を頂いたときにやりがいを感じた

時間をかけた業務の完成をむかえた時

出先事務所で工事を経験し、事業完了に携わらしてもらえた。道路や河川、災害関係など、その現場にいくと今でも思い出せる位、業者や地元の方とのいろいろな経験をした

地域の団体要望を聞いて要望に答えるよう話し合いをし、自分の意見が反映されたとき

都市計画事業(再開発)の計画、設計、施工に携わり、地域の人々やコンサル、施工業者等と連携しながら事業が完了して、まちの一部として形になったときに、大きな達成感を得ることができた

都市計画道路事業における設計積算業務と業者を交えた施工に関する打合せや施工状況の視察など

東日本大震災の災害復旧事業計画の策定に携わり、ゼロからの町の形づくりに携わった。様々な思惑が交差する中で意見整理を行って説明を行い、反対派の合意を得て事業計画を決めることが出来た。先日事業が完了したのを見届けたのはとてもやりがいがあった

複数工事が錯綜するなか、業者や地元の方々と調整を行い円滑な進捗に貢献できたこと

予算不足により橋梁点検に基づく補修事業が進捗しない中、国や市内部との予算調整や各事務所との調整の結果、事業全体を進められたこと

何十年と工事していた連続立体交差事業が完成し、イベントを行い多くの市民の笑顔が見れた時

砂防堰堤や擁壁など地元住民の生命を守る構造物を施工し、住民から感謝される瞬間が最もやりがいを感じる

## 3. 地域課題の解決

工事が完了し、住民の方に感謝の言葉をいただいた

工事の完成を経験し、地元の役に立っていると感じた

市内で起こるトラブルを、市民対応から対応方針・工事の監督までおこない、トラブル解決まで導くという仕事を現場事務所で経験できた。目に見える成果があり、その方針を決定できることにやりがいを感じた

地域によって異なる課題を解決するため、地域の方とコミュニケーションを取って事業を完成させたこと

地元の区長さんからの要望にすぐ対応してとても感謝されたとき

地域のなかで大きな役割を果たす公共事業に携われた

地域住民の生活に欠かせないインフラを整備できた

長年塩漬けになっていた事業を完了したとき

舗装補修をし、地元住民に歩きやすくなつたと感謝されたこと

歩道のない通学路に歩道を設置し、地域に喜ばれた

#### 4. 仕事上の役割

施設新設のプロジェクトリーダー

各市町の指導監督や、工事検査に随行し検査員として業務に携わった時

監督員として工事を完成させたこと

局全体の管理を担っていること

#### 5. 危機管理に関するここと

災害対応、災害復旧、災害派遣など

災害復旧で排水機場を整備して、整備後に浸水被害が減ったこと

災害復旧工事では、地元の声がダイレクトに入ってくるので、工事完成時の達成感は非常にあった

防災、耐震対策

#### 6. その他

自分がかかわった事業・施設がニュースやSNSで注目を浴びていると単純に嬉しい

地元の小学生や地域住民等への出前講座

直接市民の方とお会いして、災害時の訓練をしたこと

## 自由意見(4) かなえたい仕事の夢【概要】

### 1. 仕事の内容に関するこ

いろいろな工種や工法を網羅したい

インフラで地域の活性化、すこしでも地域をよくすること

インフラの取捨選択

インフラ整備が社会から感謝されるような情報発信

インフラ分野で国際協力に携わりたい

県の夜景をつくる

こどもたちが喜ぶものをつくりたい。こどもが楽しく親しめる河川等

スケールの大きなこと、誇れる仕事をしたい

ダムやトンネル、道路バイパス事業、橋梁工事などの大規模事業に完成まで携わりたい

どこを歩いても安全できれいな街をつくれたらと思う

まちづくりに携わる・貢献する。まちづくりのデザインにかかわり、まちを今よりもっと素敵にすること

ミッシングリンクを解消させ地域間の連携を強化する

やりがい・達成感を感じられる仕事をしたい

より良いものを造ることに貢献したい

安全で快適な街をつくる

河川整備を主体としたまちづくりにおいて、管理主体や区分の異なる地域をつなぐ、連携したまちづくりをしたい

環境に優しいまちづくりをしたい

関西・日本の成長の基盤となるインフラを着実に整備・維持していく

規模の大小問わず地域の人から喜ばれるような仕事

記憶に残る建物を作りたい

世界にアピールできるような街にしたい

景観に配慮したインフラ整備がしたい(将来の景観予測や評価指標を明確化するなど)

経済、災害対策を含め、安心して暮らせる社会の形成に役立つ仕事に継続して関わること

計画系分野の業務に携わり続けたい

計画調整した事業が完成した姿を見たい

建設の分野で地域貢献をし続けていきたいと思う

建設業をより魅力的にすること

県に人・モノがあふれかえるような、そんな街づくりを実現したい

県を跨いだ仕事に携わりたい

県内交通インフラの拡充

現在居住している地域における利便性を拡充したい

後世に残る仕事をしたい

公園をより活用してもらえるようにしたい(ハード面でもソフト面でも)

国をあげて実施されている大規模事業に携わること

今までにないまちづくりをしたい

再開発に携わる、公共交通の整備を行う、それらによって観光客を増やす

仕事を通じて近畿圏の経済を回復・成長させること

子供たちが安全・安心に暮らせる道路の構造・維持管理計画などの確立  
市民が自慢できるまちを目指したい  
市民が不便なく水道水を利用できる環境を作ること  
市民と協働して暮らせるまちづくり  
市民の笑顔につながる仕事  
市民の利益になるような仕事をする  
市民の生活水準向上に寄与すること  
市民の満足度を上げる仕事  
自分が熱中できる仕事内容をみつけること  
自身の計画した業務が実際に整備されること  
自然環境の保全に関わる仕事がしたい  
自分がやりたいこと・楽しいと思えることを仕事にしたい  
自分のやりがいを感じられる業務を見つけること  
住民・観光客問わず、訪れたくなるようなまちづくり  
渋滞のないまち  
縮小方向にある水道事業を長期的に持続させられるよう、水道システムを構築する  
将来に渡り、現状のインフラのレベルを維持していきたい。これからは維持管理が重要  
小さなことでも、身近な人の生活が少しでも良くなるような事業に携わり続けたい  
人と自然が共存できるまちづくり  
人に夢を与えることが出来ること  
人の集まる魅力あるまちをつくること  
人を幸せにする仕事  
整備した施設効果が発揮され、地域の住民の安心・安全かつ快適な生活に寄与すること  
生活基盤として長く愛される土木構造物の整備  
積算業務をなくしたい  
大学で学んだ交通計画に関する業務に携わる機会があればいい  
誰からも見てわかる仕事  
地域の魅力を活かす形で東京一極集中を地方自治体目線で解決したい  
地図に残るものを作り、様々な人たちに有効に活用してもらいたい  
長年残る構造物の施工に、できるだけ多く携わりたい  
津波被害の軽減に向けた業務に携わること  
天候に左右されず円滑な交通が確保されるような道路の整備事業  
都市計画や都心部の再編などの大きな事業に携わり、変わっていく都市を見たい  
土木技術をより使う業務に携わりたい  
土木構造物のメンテナンスを通して市民に安心してもらえる街を作りたい  
日本を代表する市の貴重な資源を土木の力で守り、日本の発展に寄与していく一翼を担いたい  
府全体の事業計画を立てる仕事をしたい  
防災など、直接人の役に立つ仕事に携わる  
自分の関わった事業で地域の魅力が上がり、どこまで自分の考えが反映されているか見てみたい

利用者の思いをカタチに変えることが出来れば良い

## 2. 仕事の進め方・役割に関するここと

できる限り地元の要望に答えたい

まちに大きな影響を与え自治体の成長や住民の満足度に貢献するような大規模な事業に主体的に携わること  
もっと住民と双方方向・建設的なやりとりをしたうえで計画を立て、住民に喜ばれる施設を造りたい

一つの現場を初めから完成まで関わりたい

現場に携わった経験がないため建設現場に携わりたい

効率よく、スピード感を持って仕事をさばく

事業の意思決定

自分なりのスケジュールを作成し、その通りに業務を進めていけるようになりたい

市民生活がよりよくなるような政策立案にかかわりたい

受発注者双方の負担を軽減するための取り組み(インフラDXの推進等)

昇進して係をまとめたい

政策などに関わり、指針や便覧など技術的な仕事を行つていただきたい。基準類が多く複雑なので整理・改善したい  
地域を良くしたいという思いを持ち続けて仕事をすること

地元に密着し、地元の方々を笑顔にする。分野は問わないが、常に地元と関わり続けたい

土木にITをもっと取り入れたい

土木構造物の維持管理の効率化を進める業務に携わりたい

様々な知識を得た上で、管理職となり自らこだわった形で事業を行つてみたい

## 3. 技術力の向上・人材育成に関するここと

あらゆる分野の仕事を経験してジェネラリストになる

この分野ならこの人に聞けば良い、と言われるような専門的知識と経験を身につけたい

どんな人とでも信頼関係を築き親しく接せるようになりたい

どんな立場になつても人のことを思いやる気持ちを忘れないこと

もっと実務技術を受注者に伝えたい

一流の土木技術者になりたい。

課題に対して様々な経験や知識で解決できる技術者

技術士を取得し、市に貢献したい

技術的な多角的な視点で物事を捉えることができるようになること

技術力、対話力を向上し、誰からも信頼される職員になること

業務を潤滑に進める力を身につけること。その場その場で的確に判断する能力を持つこと

計画から現場作業までなんでもできる職員になりたい

現場に詳しく工事経験が豊富になりたい

公務員の技術力向上に貢献できるような知識経験を身に着ける

災害対応の時に頼られるような知識・技術・発想力を身につけたい

資格を取得し、意思決定が可能な技術力を身につけたい

自己研鑽し、高い技術力を身につける

自分の強みを見つけて、それを生かせる分野で頼りにされ貢献したい

社会全体が成熟した昨今の情勢に対応できる技術者になりたい

若手職員の育成をしたい

住民主体のまちづくりをよりサポート出来るような立場で技術力を発揮すること

女性として、家庭を築きながらキャリアアップを目指したい

上司、部下、市民から信頼される職員になれるように様々な知識を身に付けたい

職員、受注者のさらなる技術力の向上

人から必要とされその場において職場を楽しく明るくできる存在で在り続けたい

組織や仕事のやり方を変えて土木技術者の地位向上を目指したい

土木技術者として生涯現役でいること。退職後も必要とされる人材

専門的な知識を持って市民生活を支えたい

多くの職員が自身の技術力を向上させ、それらを仕事で発揮できるような場が作られること

地域貢献出来る立派な技術者になりたい

地方における建設業の技術力向上に貢献する

土木分野と法律分野の両方に精通している人になりたい

土木職員が苦手としている分野(電気、情報、計算、語学、契約等)の知識を増やし、他分野との調整ができる人材になりたい

道路でも河川でも知識を身に着け、教える側の立場になること

幅広い知識を習得し、多角的な視野で様々なケースについて対応できるようにする

#### 4. 職務環境・組織等に関すること

きちんと仕事をする人が評価される組織

ワークライフバランスの実現、子育て中の世代や女性も安全に働く職場環境の実現

活気のある、和気あいあいとした職場づくり、楽しく仕事をする

古い体勢や考え方を変えたい

若手職員が働きやすい環境をつくる

縦割りといわれない組織づくりを目指したい

心が病んでしまう人がいないハラスメントのない職場環境を作ること。心身ともに健康でいること

庁内全体の働きやすさや効率性を高めて、より良い公共の福祉の増進を達成すること

年長者が指示を出す職場ではなく、若手がトライ＆エラーを実践できる職場を作りたい

年齢や年功に関係なくポジティブな意見を尊重できる環境を作っていくたい

#### 5. その他

公共事業が地域の方の身边にあるものだと思ってもらえるようにしたい

局長になって女性も土木で働きやすいようにする！

指定職になり職場に貢献したい。仕事だけでなく、社員の気持ちも把握し信頼される上司になりたい

建設業にもう少し予算がつくよう、建設業の重要性や魅力を世間にもう少しわかってもらいたい

現場で解決できない問題を解決策を考えて論文で発表したい

公務員のうちに資格取得や自分への投資をして異業種へ転職したい。独立して建設コンサルタントとなる等

行政を変えたい

仕事を通じて、やりがいをもって、成長を実感できる毎日を送る

市が住みやすい街として人気がであること

昇給、お金に不自由のない安定した暮らし。精神的に安定した生活

地元がより盛り上がる事が仕事のやりがいです

## 自由意見(5) 女性職員 仕事上で困ったこと・不都合なこと【概要】

### 1. 仕事の内容に関すること

マタニティ時期の全般的な業務(通勤、運転、作業着を着づらい事等)

一番の悩みは、体力が男性にはかなわないこと。災害後、測量業者と一緒に現場を回る事があったが、体力的に最後までついて行くことができなかった。水防時も、資材を撤去することになったが、戦力外と判断され事務所待機になった

急な法面を上る等、体力的についていけないことがある

現場に同行させてもらえない

力仕事がある

### 2. 勤務の形態に関すること

勤務地が遠く帰りが遅くなり、食事や洗濯等の家事を行うと睡眠時間の十分な確保が難しい

産休・育休の際の代替え職員が募集しても来ないことがよくあり、産休・育休を取るのが申し訳なくなる

残業で帰りが遅くなる。工事の夜間立会がある。水防や緊急当番の際は夜中や休日の呼び出しがある。家事との両立が難しい

子育て中の職員(男女ともに)に対して業務上の配慮がない。子育て中の職員(男女ともに)は水防などの当番を免除し、その業務は外注するなど他の職員への負担軽減も検討すべき

女性だから、と夜間勤務に出してもらえない、当直勤務を担当できず、男性職員に皺寄せが行って肩身が狭くなる

水防勤務などで急な寝泊まりが必要になる

水防待機の際、女性は夜中免除と記載されているのにも関わらず、招集がある。するなら、ルールを変えて欲しい  
当直業務のある職場だが、職場に泊まる設備が乏しいことなどを理由に認められず、自分だけ当直業務にあたることができなかつた

### 3. 職務環境・施設等に関するこ

シャワー室が男女兼用で鍵がない

現場でトイレに行きづらい(トイレがない、言い出しづらい)、女性ならではの体調不良など相談しづらい

更衣室やトイレが汚い、ウォシュレットがない(特に出先事務所)

災害待機用の(女性用)仮眠室がない

作業着のサイズ(女性用でない)

### 4. 人事に関するこ

女性だからその部署には行けないと異動の際に突っぱねられる

女子管理職が少なく管理職のイメージがわかない

女性の現場職が少ない。管理部門や内業がメインとなっているようなイメージがある

女性職員ということを意識しすぎているのか、人事が女性職員ばかりとの交流を促す。いろんな経験をしている人と分け隔てなくかかわって様々なことを吸収できればと思っている

女性土木職員の同期がバラバラの土木事務所に配属され交流できない

全国的に女性の管理職、役職者の割合に数値目標が設定されている場合が多く、同じ能力であれば男性に比べて女性の方が昇進しやすい。正しく能力を評価してもらえないのではないかと不公平に感じている

### 5. その他

飲み会などで不快な思いをすることがある

協議相手や業者、同僚に女だからと舐められる

月経による体調の波に関係なく災害はやってくる

健康診断の時に男性と一緒にになるのが嫌

現場の人が、男性職員にばかり意見を求める。運転できるのに、車の運転をさせてもらえない時がある

交流が少なく、しんどい時がある。高卒女子というのもあり、周りから話しかけられにくい。

自転車で出勤しているが、夜道は街灯や照明灯が少なくうす暗いため早く帰りたいが残業で帰りが遅くなる  
女じゃ話にならない！と言われたこと

女性だから、○○しなさいと言われる。コーヒーマシンの掃除、掃除など

女性だからとよくも悪くも特別扱いされるので、しないでほしい

女性だから特別扱いされているなどの周囲の発言

女性だから比較的優しく接してくれる人が多いが、できることは任せてほしいと思うことがある

女性であることから下に見られることが多いため、悔しい思いを何度も経験した

女性に慣れていない男性先輩と日々のコミュニケーションが取り難く、技術的質問をしても深掘りされないことから、(女性職員への)指導力に差が生じていると感じる

女性の土木職の人が嫌いと新規採用職員のサポートを行う人に直接言われた

女性職員が少なくキャリアプランを考えづらい。女性職員はどうやって結婚して、育児しているのか知りたい

女性職員が少なく相談できる人がいない

女性職員との距離感を勘違いする男性職員がいる

女性特有のしんどさを共感してもらうのが難しい

女性特有の病気や体調不良があるとき、制度はあるものの、(男性の)上司に伝えることができず、利用したことがない

上司や地元住民からの女性蔑視の発言。受注業者や現場技術員からのいやがらせ。人通り少ない現場等での不審者出没

生理期間中、長時間現場に出ている際、トイレに行きたいなど同行者に伝えづらい

全体的に男性社会であり、職場の選択肢が狭い

男性職員がほとんどなので、女性に配慮のない発言をされることがある

男尊女卑がひどい

都合のいい時だけ女性扱いされるが、普段は男性と同じ仕事をさせられる

同性で若くて新人というだけであたりが強い

妊娠中の仕事について相談しづらい

子育てと仕事の両立について相談する機会が少ない(事例が少ない)

## 自由意見(6) 女性職員をふやすための対策【概要】

### 1. 仕事の内容に関すること

しんどい、汚い、難しいをなくす

現場の職場でも女性ができる仕事を設ける

### 2. 勤務形態に関すること

いままでの配慮で十分に感じる

それより男性職員の育児時間の確保、休暇取得の取りやすさ、非効率や無駄な業務削減など改革をしてほしい

休みを取得しやすい環境づくり

結婚や出産をサポートする制度はあるが、周りの職員の理解がなければ取りにくい。技術屋という男性職場でも、臆することなく制度を利用できる環境づくりが大事

職員の年齢層や性別の偏りを無くし、女性職員を最低2人は配置する

現場等へ行く際の安全面の配慮、性別に関わらず子育てと両立できる環境

産休、育休および育児や介護での時短勤務等をカバー出来る人員配置

男性の育児や介護のための休暇の取得や時短勤務の取得率の向上

子供がいる家庭では緊急対応を免除すると働きやすい

時間外勤務(特に夜勤)が少ない環境にする

通勤時間の配慮、時差出勤やテレワークを進める

転勤をなくす

### 3. 職務環境・施設等に関すること

トイレや冷暖房設備などを整える。

子育てを地域社会でバックアップしていくしきみ

女性が働きやすい環境づくりより男女ともに働きやすい環境づくり

女性にも適した作業着

女性に限らず多くの人が魅力に感じる執務環境の改善

職場環境の改善(綺麗、おしゃれ、明るい職場)

### 4. 広報など

まずは土木自体に興味を持ってもらうところから始めるべき

公務員はすでに魅力的なものであるので、土木女子の母数が増えれば自治体の土木職の女性職員は増える

学生に向けた、女性でも働きやすい職場(育児制度など)であるというアピール

管理職の女性職員による体験談や説明会、女子学生を対象にした就職説明会、(女性)インターンシップの開催

仕事と家庭を両立しているロールモデルを見せる

実際に働いている環境を紹介する

女性が多いことをアピールすること

土木のイメージアップ

福利厚生が充実していることを大々的にアピールする

### 5. その他

そもそも職員の男女比を気にするものなのかなと個人的に思う。民間に比べて、十分働きやすい環境と思う

女性が不快と感じる言動をなくすこと

差別はもちろんだが、特別扱い(優遇)されているようなところもできるだけなくして、平等に扱ってほしい(危ないから〇〇しなくて良い、とか)

女性の先輩に相談する機会が欲しい

男性職員の女性職員に対する偏見をなくし、意識を変えること

## 自由意見(7) 地方公務員について【概要】

### 1. 仕事の内容に関するここと

いろいろな業務を経験できる

技術力を持っていても活かす場所が少ない。仕事を通じて土木技術に関わる毎日を送ってみたい

計画～維持管理まで広く携わりたいなら公務員が良いと思う

就職前に自分で考えていた業務と実際の業務内容に大きな違いがある

出身地のことを深く知れる

責任感が求められる、大切な仕事

専門的な知識を幅広く学ぶことができる為、やりがいのある仕事だと思う

想像していたより法律や条例など根拠に基づいた仕事。これから様々な仕事を経験していきたい

地方に寄り添い市民の立場に立って、インフラ整備に携われる

県は、国と市町の中間であり、大規模プロジェクトに携われ、地元密着で仕事もできる非常にいい職種

転職して初めて、公務員の仕事が多岐に渡ることを知った。広報広聴、産業・企業誘致、地元対応等、土木分野以外の仕事も多い。その魅力は、「土木」にとどまらず、「まちづくり」に携われるという点にある

土木系の地方公務員が一番市民に貢献できる職業だと思う。利益追求を考えずに最適解を実行できるのが地方公務員だと思う

発注業務を担当している職員は、違算等に対するプレッシャーも非常に高く、住民の方からの要望も多いなか、ストレスがたまりやすい職種

本庁、出先機関により仕事の内容がガラッと変わるが、それぞれに魅力があると感じている

民間では決定権なく、計画企画することができない街づくりに主導で出来る

民間と比べて窮屈な部分が多い

民間と比べると給与は低いが地域に密着できる点と職場の風土は良い

民間のメーカーで働いていたが、純粋に県民の為に働くことができて素晴らしい職業と思う。仕事なので辛いこともあるが、地方公務員になれて良かったと思う

### 2. 仕事の進め方に関するここと

ICTの活用に注力すべき

ある一定の制限の中であれば、自分の思うように働く

もう少し柔軟な働き方ができればよい

決裁一つに時間がかかりとても非効率だと感じる。議員に気を使いすぎている。業者と上司の板挟みにあうのは辛い

古い体制が残っており、現状に留まろうとする人も多い

議員や幹部、上司がパフォーマンスをしたいがために、住民サービスに直結しない無駄な仕事が多い  
仕事をしない人のツケが回ってくることも多く、「若手」であることをいいことに、時間を搾取される

国へお伺いを立てないとならない場面が多い職業

昨今の社会情勢の変化に対応できていないと感じる(デジタル化、省力化、働き方改革など)

仕事量に対し、人が足りていない現状があるため、必要な仕事を整理することが必要

思っていたよりもITを活用している。また、思っていたよりも前例にとらわれず、柔軟に対応している

出先事務所では手続き、協議、調査もの等に追われ、現場に行く時間がない。若手の離職率が増加している。解決には、業務の大幅削減や業務委託など、職員が事務に集中できる抜本的な改革が必要

人口減少によって財政が悪化する中、コスト意識を持って業務にあたるべき。コスト縮減を評価できる組織体制であるべき

前例踏襲型の仕事のやり方になっているところに大きな不満はある。業務の取り組み方を改善し、保守的な風潮からの脱却を目指したい

地域に貢献できる仕事にはやりがいを感じるが、業務量の削減や業務の簡略化は必須であると感じる

地方公務員がより魅力ある職種となるように、働き方改革がさらに進むことを期待する

毎年ルールが増えており、事務仕事が複雑になっている。ICTで業務負担の軽減を進めていかなければ、有能な人材に見切りをつけられたり、人員不足が解消されない

### 3. 人事・組織・人材育成等に関するここと

II種区分(短大・高等専門学校卒業)の創設を推進してもらいたい。苦労して高専を卒業したが高卒と同様の扱いはモチベーションに影響する

異動があっても市内なので人生設計が組みやすい

異動が多々ある公務員において、上司と部下のマッチング次第で仕事の進捗やポテンシャルの発揮度、チームワークなどが大きく左右される

学ぶ時間が欲しい

技術士の資格を早く取って、本当に人のためになる仕事をしたい

技術者不足が慢性的に続いているせいで、技術者として本当に必要な業務が疎かになっている気がする

技術力のない人間が権力を持って、理論ではなく、誰が言っていたかで物事を決めることがある

県庁を退職し、市町村役場等に転職する若手が急増している

毎年の採用数を増やすだけでなく、離職者を減らすための対策をしてほしい

公務員として事業を進めるには、コンサルや施工者とやりとりするための専門的知識と同じくらい、地域の住民さんにわかりやすく説明する能力が必要

夫婦で働いているのに異動に当たって勤務地が配慮されていない

異動発表が遅すぎる。たった1週間で仕事を引継いで、寮かアパートを探し、引っ越しをする

男性なら身軽にできるかもしれないが、女性には厳しい。時代に合わせて改善してほしいと思う

公務員の技術力向上に向けては、給与面での改善により良い人材を集めること、さらに積極的な外部組織との人事交流が必要

公務員も若手が増えており、現場未経験で設計を行うなど人が少ないとによりそうせざるを得ない状況となっている。技術力の向上に課題を感じている

高卒生の採用が少なすぎる。採用の枠を広げることで志願者はかなり増えると思う

国家公務員からの転職だが前職の経験が役職等に反映されないのが不満

財政逼迫を理由に人員不足の改善がなされず、職員の士気及び住民サービスの低下が慢性化している

仕事ができる人・真面目な人への負担が大きすぎる。逆に仕事ができない人・しない人へのリスクが少なすぎる。このままだと仕事ができる人・真面目な人はどんどん退職していく

市民に密着した形で自らの裁量で業務を進めることのできる地方公務員に大きな可能性を感じて転職した  
インハウスエンジニアの育成こそが活気ある職場づくりにつながると思う

市民や後進のために尽くす志を持った人が管理職になる仕組みを作ってほしい。公務員には、経験値やスキルの高い人財がたくさん埋もれている

資格取得の補助はあるが、取っても優遇がなく、資格を取ろうと考えたりしづらい環境もある

資格取得の取得率を上げていけることが出れば、技術力の向上にも繋げていけるのではないか

自治体によるが採用されれば異動による出勤地の変動の影響が少ない

社会人採用の人事制度に問題がある。前職と関連のある部署を希望しても全く異なる部署に配属になる

若い職員が進む道標を示してあげる事が成長を進めることもあると思う

若手を育てる意識が全体的に足りていない。人員不足のため、新人のときから難しい現場を押しつけられ、周囲も面倒を見る余裕がない。この状態をもっと問題視すべき

若手を育成する人を専属で付けるなどすると離職率は下がると思われる。現在人手不足で自分の仕事で精一杯の職員が多い

就職に関しては学生が興味持てるような案内やインターンが少ない

新規採用職員に対するフォローが圧倒的に足りず、採用してもすぐに離職する

若手の離職率を低下させるような、魅力的な職場にすることが重要

新卒採用を優先するのではなく、中途採用を十分に活用する方がよい

中途採用者の技術力が組織内で広まり、組織の技術力は向上する

人員不足は避けられない状況。現場技術員や技術アドバイザーとしてコンサル・ゼネコン等から人員派遣をしていくのが現実的な解決方法かと思う

人数が少ない中、全体のモチベーション向上と、優秀な若手の確保が重要な課題

成果主義の概念を取り込んだ方がいい

地方公務員は、技術力もあるにこしたことはないが、それよりコミュニケーション能力や俯瞰で見れる能力、他者との調整能力が重要

中間管理職員や幹部職員に組織マネジメント能力が欠落している。職員が少ない中で、職員に負担をかけるような組織マネジメントが多い。上層部の意識改革、組織マネジメント能力の向上が必要

年功序列、トップダウンが強すぎる。もっと頑張っている人が評価され、それが目に見える形で反映されるべき  
発注者の技術力の低下は喫緊の課題だと思われる

今の人材不足と、書類仕事に追われ、現場は業者の言いなりで、自分で考えない発注者が増える一方だと思われる

不祥事があっても組織として責任を取ってくれるのは非常に遺憾だと感じた

民間では何年目にこれくらいのことができるようという育成目標がある。自治体でも目標を設定すると良い

#### 4. 職務環境・ワークライフバランスに関すること

体の調子を崩している職員が多く見られるが、事態を甘くみている。予防的な対応を求める

シャットダウンシステムで勉強する時間もない

若手が辞めており、対策を一丸となって考えなければならない。業務量と配置、さらに入間関係が大事  
ハラスマントの排除、報酬・労働条件の向上、役所の仕事の方法(議員や地元の対応など)を変えない限り、人は定着しない

ワークライフバランスがとりやすい職場と感じている

休みが取りやすく、仕事と趣味が両立出来ている点が良かったと思う

休みに関しては他の民間企業より良いと感じる。給料面、市内に住みやすいような家賃補助、テレワークなどの働き方改革が今より一層上昇してほしい

仕事も充実し、自分自身の時間も比較的に取れ、人間らしい日常生活がおくれる

組織の体制もしっかりしている。土木職は、中堅層が少ないように感じるが、その分、研修や職場内の指導が充実しており、働きやすい環境である

設計から積算、実際の施工から維持補修まで幅広い知識が必要であるが、業務に追われ勉強する時間がない  
地方公務員に対する業務量は年々増加している。事故や災害が起こるとそれを防ぐためのルールが増え、業務で対応すべき事項が増加する

転勤があるので人間関係に閉塞感が小さく、風通しはいい。転勤も県内である程度見通しが立つこと、コンサルや建設会社に比べると労働時間は短いので、働きやすい環境である

配属された地域や部署によって、忙しさが全然違うのが問題

民間時代に比べ、大変、気持ち的に余裕ができている

#### 5. 処遇に関すること

インフラ関係から転職を行ったが、仕事を頑張っても給与に結びつかないところが欠点。頑張ったり、成果を出すことで、社会から認められるという意識を持ち続けることが難しい

なぜ若い職員が残らないのか真剣に考えないといけない

新卒の安い給料で、同じ仕事をしろと言われると不満になると思う

やる気や能力を給与に反映すべき。やってもやらなくても差がないのであれば、モチベーションが下がる  
給与が民間より低く、人員不足もあり業務量が多い。多忙さゆえにやりがいを感じる間もなく次の業務にとりかかることになる。このような状況では職員不足に拍車がかかる一方である

兼業に制約があるため、多少の副業ができるようになると嬉しい

雇用が安定している

若いちは給料が低いので、モチベーションを上げにくい

水防や除雪の待機で休みに予定を入れられない。待機や緊急連絡用の携帯を持つ者へ手当を与えるべき

転勤がなく、収入が安定している点は客観的に見ていい部分と思う

年齢と残業時間数が多い人が給料がいいシステムなのでモチベーションは上がらない

副業が解禁されれば、自由度が高くなり、より良いと思える

福利厚生の充実、病気になった時も手当ができるなど働きやすい環境だと思う

#### 6. モチベーション・やりがいなど

やりがいについては個人の気持ちの持ちよう次第。部署や人間関係といった環境でモチベーションは変わる

やりがいを感じる場が限られており、若手職員の離職率が高く、今後に不安を感じる

公務員であり、技術者であり、多様な業務に携わることができる面白い職業

国家公務員に比べると大規模な工事は少ないがやりがいがある

細々とした面倒なことも多いが、やりがいを感じられる仕事である

市民に近いところで仕事ができ、地方公務員として働くことに喜びを感じている

市民の安心安全で快適な生活を守るというプライドを持って働いていきたいし、みんながそうであれば嬉しい

市民や業者の方から感謝してもらえる

社会や人のために働く、素晴らしい仕事。地方公務員である事を誇りに思う

就職前の想像より忙しいが、幅広く土木行政に携われ、地元への貢献度も高いことから満足度は高い

住民の声をすぐに聞くことができる。大変だが住民の笑顔や感謝の気持ちを聞くことができやりがいを感じる人によってモチベーションの差が大きく、頑張る人に仕事が集められるように感じられ、不公平だと思う

地方公務員の技術職として、地方行政のインフラ整備に携われていることは非常にやりがいがある

地方公務員の土木職のやりがいとは、自分達で考えたものが形になっていくことだと思う。計画、設計、工事発注し、施工業者と現場を作っていく。自分で考えたものが実際の構造物に変わっていく実務性こそが魅力

地方自治体の魅力は、地元のまちづくりに携われることが最もやりがいあることだと思っている

土木は関わった仕事が目に見えるので、やりがいがある

## 7. その他

インフラという多くの人がかかわるものを調整する立場、相当な覚悟が必要

やる気や元気のある若手が増えると嬉しい

技術職の公務員のアピール力が少ない

勤務時間中でも、市民の目を考えて、常に気を張らないといけず、精神的に疲れる

公務員になってから学生の頃の自由な発想みたいなものが無くなっているのが残念に感じている

公務員になれてよかったですと感じる事が多々ある。これからも、自分自身のスキルを磨くため、自己研鑽に努め、県民の安全・安心を守る公務員になりたい

公務員の社会的立場が向上してほしい

公務員への風当たりが強く、不当な要求がたまにある

向上心を持って仕事を進めたい

地方公務員がいるからこそ市民が普通に生活できていることを積極的に発信するのも重要

若い人には良さが伝わりにくいが、良い職場環境だと思う

住民の方々が安心して生活が送れるよう日々業務に励むことが大切だと感じている

全体として安全(安定)した決定になることが多く、チャレンジする気風がない。組織として若手の技術者をこうして育てようというビジョンが示されていない

大卒後すぐに公務員を選択する必要は無い。まずは社会に出て、自分の向き不向きや専門性、将来的なライフスタイル等が見えてきた段階で、選択肢の一つとして公務員を選択されても良いのではないか

地域のためにがんばりたい。地域活性化のキーパーソン

地方公務員の魅力を発信して、負のイメージを払拭すべき

土木業界全体として人材不足が叫ばれているので、自治体職員の確保だけでなく業界全体の問題としてとらえることが重要

同じ出身大学が優遇される人事、議員に対してNoが言えない風土、地元の権力者に対して物も言えないようなことも経験した。悪習を正すよう首長は職員の意見にも耳を傾けてほしい

特定の地域に対する仕事のため、他を知る機会が極端に少ない。自治体の枠を超えた気づきの機会が必要

粘着質な市民への対応など実名の公開にリスクがある場面では、業務上の名前を利用できるようにしてほしい

民間の感覚(庶民の感覚)と意識が違う

インターンシップで仕事の内容を伝えられていない。土木職員の仕事内容の発信が不足。どのような事業を行っているかでなく、実際の仕事はどのようなことをしているのかということを積極的に伝えていくべき